

発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

報恩感謝の思いを携えて

9〜11月 おたすけ推進団参に挙つて参加を

大教会が創立110周年を迎えた本年。6月23日には創立記念祭が執り行われ、大きな喜びを味わわせていただいた。

この喜びの旬を迎えることができた感謝の思いを携えて、おちばへ運ばせていただく。一人でも多くの方をお誘いして、親神様・教祖にお喜びいただけるよう励ませていただきたい。

大教会では、今月から11月までの期間に「おたすけ推進団参」を実施するよう呼びかけている。

これは創立110周年の年である本年後半の中心となる活動。無事に、また賑やかに記念祭を迎えることができた喜びと御礼の思いを込

めて、おたすけに励ませていただきたい。たとえ声かけが実らなくとも、そうして一生懸命に努めた真心を、親神様・教祖は必ずお受け取りくださり、お喜びくださるはずである。

また、おちばがえりした際には、ぜひ感謝と喜び

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

の心を込めてひのきしんをさせていただく。

9月は全教会布教推進月間

折しも9月は本部から「全教会布教推進月間」として、一人でも多くのようほくによる布教活動の実践が求められている。団参に向けておたすけに取り組みせていただくことは、大教会の打ち出しに沿うだけではない、本部の旬の声に応えることにもなる。

さらに、現在募集中の修養科生は1千期の節目を迎える。修養科生募集の声がけにも一層力が入るはず。この9月はまさしくおたすけの旬であり、本愛につながる私たち一人ひとりに、積極的なおたすけ活動、にいがけ実動が求められている。

本愛につながる私たちの今日があるのは、先人先輩方が報恩感謝の思いから、教えを広め、たすけ一条の道をお通りくださったからだ。その思いを受け継いで、感謝と喜びの心で、この機会に一人でも多くの人をおちばへと連れ帰らせていただきたい。

第1000期

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

《集合・面接》

日時：9月26日午後2時 場所：本愛話所

9月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

修養科生大募集

入社祭・秋季霊祭	1日 午前10時
よふき会例会	2日 午前10時
鼓笛隊練習日	8日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
青年会例会	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前10時
こかん様に続く会	15日 午前9時半
むつみ会例会	16日 午前10時
こども食堂MOGU	17日 午後5時
婦人会例会	20日 午前10時
鼓笛隊練習日	22日 午前10時
本部月次祭	26日 午前9時
修養科志願者面接	26日 午後2時
習字のOKEIKO	28日 午後2時
5週目を除く毎週木曜日 全教一斉にをいがけデー	28日 午後3時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

いとおるからであります。子供はそのおやざとに帰ることによって、親と団欒する気持ちで楽しむ事が、これが陽気ぐらしのひながたである」

ぢばは「出かける場所」ではなく、「帰る場所である」ということを、教祖は御在世当時から説き諭しておられました。
たとえ帰れなくても

方々の思いを、教祖は「おぢばがえり」として受け取ってくださったのでした。現代でも海外に在住している人など、さまざまな理由でおぢばに帰れないことがあると思います。もしそうしたときには、おぢばの方向へ遥拝するなど、ぜひ心だけでもおぢばに向けていただきたいと思います。教祖はきつとその心をお受け取りくださると、この逸話からは悟らせていただきます。

本愛大教会では9月からおたすけ推進団参の実施を各教会に呼びかけています。今回は「おぢばがえり」について、考えてみたいと思います。

また、私が大学時代に授業を聞かせていただいた笹田勝之先生は、教祖の「世界から親里を慕うて帰ってくるのは、やぶいりに、親元へ帰るようなものや」というお言葉を論文の中で紹介しておられます。

昭和28年4月のみちのとも、上田とみゑ氏の回想として、次のような話も掲載されています。
「ある時、教祖様の前にお伺いすると、教祖様はじつとすかして、むこうの方を見なさるんで、なんでそうしなはるか、と思うてたら、あすこにたんと人が坐っているなあと仰っていたが、誰もいやへん。(中略)

とはいえ、教祖は私たちがおぢばへ帰ることを心待ちにしてくださいませ。以下は口伝ですが、「親は子供には砂糖のように甘いからおやざとと言うのや」というお言葉も伝わっています。

おぢばは、言うまでもなくいざなぎのみこと様といざなみのみこと様が人間を宿し込んでくださった場所人間創造の地です。

昭和三十一年、こどもおぢばがえりが始まった翌年に中山正善・二代真柱様は、その意義についてこのようにお話しになっています。

「元宿しこまれた位置であり、それが親の名を、親の神名を、この地球における月日親神様のお鎮まりあるおやざととお教えいだ

それはどこまでにお待ちくださる親心にお答えできるよう、ぜひこの秋には、それぞれがおぢばへ帰らせていただきます。

「元宿しこまれた位置であり、それが親の名を、親の神名を、この地球における月日親神様のお鎮まりあるおやざととお教えいだ



「元宿しこまれた位置であり、それが親の名を、親の神名を、この地球における月日親神様のお鎮まりあるおやざととお教えいだ

それはどこまでにお待ちくださる親心にお答えできるよう、ぜひこの秋には、それぞれがおぢばへ帰らせていただきます。

公式サイトと YouTube をご活用ください!



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

天理教 本愛 検索

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年の夏は例年になく厳しい暑さで、まだしばらく残暑が続くような心配です。しかし猛暑は悪影響ばかりではありません。エアコンなどの売れ行きが好調で景気が刺激され、その恩恵にあずかった人も多いようですし、お米の成育も順調でしょう。いずれにせよ世の風潮に流されず、太陽と雨の恵みに感謝する心は忘れないようにしたいものです。

ところで親神様の十全のご守護によれば、火の温み、水の働きは、をもち、みことこの守護で「女の理」、

重なる」といいます。では、火の恩を重ねるとどうなるでしょうか。火は「女の理」ですから、自分の周囲にいる女性、すなわち妻、娘、嫁を十分に借りられない姿が現れてくる、と初代会長様はお諭しになりました。

■もつれを解くカギは

と熱と潤いを与えて農作物を成育させ、人間とこの世界を守ってくださる働きを、感謝と喜びの心で受け入れることが基本で、これが親神様の思召に沿う第一の心の使い方です。

しかし、温みの働きに感謝する心を忘れ、暑さへの愚痴や不満が多くなると、次第に思召に反する心使いとなり、親神様に残念をおかけする。これを「天恩を

一方、水と潤いはどうでしょうか。私たちが使う飲料水や生活用水の元は雨で、人間の智慧や力で雨を制御することはできません。ですから雨の恵みはすべて親神様のご守護ということになります。その雨に対していつも感謝の気持ちを持つていれば、親神様の思召を立てる心使い、すなわち「理

を立てる」ことになって親神様もお喜びくださいます。しかし逆に自分の都合を優先させて、水や雨への感謝が薄れ、不平不満の心が多くなると、水は「男の理」ですから自分に関わる男性、つまり夫、息子、あるいは婿で苦勞する姿が現れてくる。これが天の理です。

あり、二十八日から三十日まで「全教一斉にをいかけデー」が展開されます。この旬にまずは、自らのご守護の受け止め方に目を向けて、世間の風潮に流されていないかを反省し、親神様を中心とした物事の捉え方を身につけましょう。

もちろん身上事情は一つの要因だけで起こるものはありませんが、水は男の理、火は女の理という教えを基に思索していくと、自分では分かりにくい心の癖が見つかり、そこから解決の糸口が開けていきます。言い換えると、自分は家族の姿を喜んでいるか、火水風のご守護に感謝する心を忘れていないか、などという細やかな心の使い方と反省が身上事情のもつれを解くカギとなるのです。

その上で、家庭や職場でも多く信仰の喜びを言葉と行いに表して、周囲へ教えを広める姿勢が大切です。人に話したり伝えたりする努力をくり返すことで、たとえ相手に教えはうまく伝わらなくとも、自分の心に教えが深く染み込んでいく。ここが肝腎です。布教の実践を通して、我が心に信仰の喜びを植え付けながら歩んでいきましょう。因はそこにあるのです。

【第 116 回】

家庭の治まりの根本要因は 火と水の恵みに感謝する心

さてこの九月は、教会を拠点に教えを一斉に広める「全教会布教推進月間」で

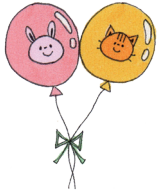
しんぢつの心みさだめつ いたなら いかなしゆこ ふもするとをもちよ

全教会布教推進月間

～一手一つに世界たすけの歩みを進めよう～

立教187年9月1日～9月30日

- 7月の初席者
- 永田有彩(本心徳)
 - 西野祥太(本則武)
 - 蔭山直久(名愛)
 - 片山睦美(本栃木)
 - 酒井利彰(本鯉城)
 - 酒井雄司(本鯉城)
 - 酒井比砂子(本鯉城)
 - シダ・ベイビー(本和合)
 - 二井喜洋(本愛中)
- 7月のおさづけの理拝戴者



本愛女子青年 こかん様に続く会

立教187年
2024年

9月15日(日)



大教会日誌

令和6年7月25日～令和6年8月24日

7月

- 26日 本部月次祭
- 27日 女子青年例会
- 27日～8月4日 こどもおぢばがえり
- 11日 女子青年例会
- 12日 常任役員会議
- 13日 月次祭

8月

- 1日 入社祭
 - 祭主・大教会長 扨者・和光重男、長江邦彦
 - 指図方・筑紫英一 賛者・杉下和平、長良英男
 - ◇祭典講話—長江邦彦
 - ◇大教会長挨拶
- 2日 よふき会例会
- 9日～13日 学生生徒修養会 高校の部(参加者12名)
- 11日 祭主・大教会長 扨者・大橋進、中島功雄
- 指図方・安藤正二郎 賛者・山本治行、桑子彰
- ◇祭典講話—大教会長
- 14日 布教実修所
- 17日 こども食堂MOGU
- 18日 青年会・学生会合同例会(参加者35人)
 - BBQ、川遊び 於・三重県 朝明川
- 20日 婦人会例会
- むつみ会例会